

会 議 顛 末

平成30年12月25日 18:30～20:00

文化会館1階 研修室

出席者 11名 ・上用委員（会長）・渡辺委員・山口委員・大場委員・松田委員
・金倉委員
（事務局）山下市民生活部長・安西課長・大井

司会～安西課長

1. 山下部長挨拶

現計画は本年が最終年度、次期計画の策定に向けて現計画の総括を行っていただき、次期計画に向けた問題の整理を行っていただきたい。忌憚のない意見をいただき十分な議論をお願いしたい。

2. 上用会長挨拶

みなさんにも次期男女共同参画計画の策定に向け協力をお願いしたい。

3. 審議事項（上用会長が議長となり進行）

（1）富良野市男女共同参画推進計画の総括について

（事務局）資料①により現計画の事務局段階での評価について説明し、推進委員会の評価・総括を頂きたい旨の説明を行った。

（上用会長）事務局より現計画の総括について説明がありましたが、みなさんの関連するところについて何かございますでしょうか。プラスアルファでなにかあれば。

（大場委員）学校教育の部分で計画として取り上げられ、実績でも触れられている項目について、これは市として男女共同参画に取り組もうとしている部分なのか。市としてこの部分を重点的に取り組もうと各学校に降りてきているのであれば理解できるが、文科省の学習指導要領に記載されている内容であり独自性は無いのではないか。

（事務局）市としても担当者が変わる中で、きちんと内容が整理されないまま数字だけを例年まとめていたという経過もあるかと思う。

（大場委員）そういうことであれば、3年とか短い期間の計画として、担当部署との連携を図ってはどうか。

（事務局）国、道の計画についても10年間を基本に、内容については3年、5年という間隔で見直しを行っているので、富良野市としても同様の取り扱いとしたい。

（大場委員）時代の変革のスピードも速くなっているので、3年毎くらいに見直しをかけていった方がよいのではないか。

学校教育の内容を掲載するのであれば、市として独自に教育に関して男女共同参画に対する方針があれば記載するなどの方法をとった方が良い。

（上用会長）学校教育のなかでは完全に男女共同になっているのが現状なので特に計画に掲載するような問題はないのでは。

（大場委員）教育の現場では男性、女性ではなく、LGBTに関する教育も必要となっている。

（金倉委員）西中ではLGBTに関する事例があり、生徒たちにはきちんと情報を伝えて正しい認識を持ってもらうということがあった。時代の変化というか、そういった認識も必要になってくると思う。

キャリア教育に関して、今年度で終わったが、富良野小、西中学校、緑峰高校で上川のモデル

事業として、ふるさとキャリア教育事業が行われていたもので、なんらかの課題なども教育委員会で持っていると思うが、3年間やってきている中で参考になる部分があるのでは。

(大場委員) キャリア教育というのは男女共同参画になるのだろうかという疑問もある。

(上用会長) なんでもそうだが、思いやりなどすべてが男女共同参画に関わってくる。事務局として、学校教育の場でこういったことを取り組んでくださいということになるのか？

(事務局) 他市町村の状況を見ながら担当者会議の中で、こういったこともあるけれどもどうでしょうという提案はできるが現実的にはこうやってくれというのは出来ない部分もあるので、教育委員会の中で検討したものを入れてほしいということになると思う。

(大場委員) 国の計画も見したが、教育関係は掲載されていない。逆に省いてもいいのではないか。

(事務局) 教育の部分では市の独自性が発揮しにくいところではある。

(事務局) 学校教育関係は再度検討することとしたい。

(上用会長) それでは引き続き、実績2男女共同参画の実現に向けた意識づくりについてです。

(山口委員) 人権擁護委員として男女委員会というものがあって、デートDV、LGBT、セクハラやパワハラについて勉強して発信しているが依頼が来ない。小学校ではいじめに関する人権教室を行い、相手の気持ちを尊重するように伝えている。

高齢者に対しても行い相手の気持ちを尊重することで人権は守られることを伝えている。高校生・大学生向けにもパワハラやデートDVも必要だが、高齢者に向けても必要。

団塊の世代以上の人間は、女だから、男だからという教育をずっと受けてきている。現在の小中学校では男女平等の教育がされているため充実している。パワハラやLGBTについてももっと広めていかななくてはならないと思っている。目標にはパワハラ関係も入れて欲しいと思う。

(事務局) 次期計画策定に向けて担当課とも相談しながら盛り込めたらと思う。

(上用会長) それでは引き続き、実績3仕事と家庭生活の調和を図る条件整備についてです。

(事務局) 資料中の項目②については、次期計画から外したいと考えている。10年前は教職員が一番制度として先進的な部分があったと思われるが、啓発含めて公表することで普及を図ることが目的だったと思う。しかし、現実的にはその役割は終了していると思うので教職員の部分だけという部分を外したい。

(上用会長) 学校教育のなかで取得状況は多いのか。

(大場委員) 男性の育児休業を取得させようと国や道が取り組んでいるが実績はない。

(事務局) アンケートに過去1年間に妊娠出産該当する取得の状況、男性については27人中育児休業を取得したのは1人。取得内容は2~3時間1回取得したもの。女性についても25人中15人の60%が取得しているが、なかなか取得しづらいのか、現実はまだ進んでいない

(大場委員) 職員であれば、休暇と休業があるので、今回は教職員データとして合わないのではないか。データとして公表するのは疑問。教職員ではなく行政の市職員へ変更して良いのでは。

(事務局) 市では取得状況について把握しているので数字の公表もしやすい。担当課と相談し、そういった方向でという事であれば、こういった意見があったという事で進めていきたいと思う。

(上用会長) 費用面や経費の部分がないと難しいと思われる。

(事務局) 中小企業の自由意見が多かったのは、少ない人数だと休業されるとその間困るという意見が多い。

(金倉委員) 男女共同参画の目標を達成させるために、企業で休んだ人に対する補助制度について普及させることが必要。

(事務局) 制度の普及により、従業員がそのような制度があること、国も法律も取得させなくてはいけないとなっている。就業規則の中になくとも取得させなくてはいけない。制度の普及を図ることで少しでも取得できる人が増えればよいと思う。育児・介護の支援体制の充実の部分は継続してやっていただければと思う。

(上用会長) それでは引き続き、実績4 就労の場における男女平等の確保についてです。

(金倉委員) 課題の中で研修会を開催しても参加人数が少ないとあるが、事業主にめけてメリットがあると参加するのではないか。

(上用委員) 制度について重々承知していても、経営が厳しいなどがある。仕方がない部分もあるかもしれないがそれでは済まされない。市としても継続的に意識改革を図る何かが必要だと思う。

(事務局) 合同調印式の関係は、次回から省略する。

(上用委員) 家族協定の推進が図られていることもあり次回から省略する。

(上用委員) それでは引き続き、実績5 政策決定過程への女性の参画推進についてです。

(上用委員) 数字だけではなく、実態や内容を含めた中で女性参画を考えていく必要がある。内容や現状を把握しながら次期計画に向けて策定して欲しい。

(上用委員) 実績6 安心して子育てができる支援体制の整備についてです。

(事務局) 時代も変わり、全体的に子育て関係も見直していきたいという担当課の考え。こども未来課には今回の会議が終わってから、推進計画について話していきたいと思っている。時代とともに、いろいろなところが変わってきている。ある程度ガイドマップ、ガイドブック的にはもう充足しているのではないかとこの部分があり、他の部分で子育て支援について何かあれば。

財政的な部分はあるが、例えば他の自治体では、子どもの医療費無料化が進んでいる部分がある。富良野市が行うという事ではないが色々なテーマがある中で総合的に見直していけたらと思う。

(大場委員) 幼稚園や保育園はこども園に体制が変わっている。子育てのガイドブック、ガイドマップは子どものお父さん、お母さんには配布されるが、40～50代のおじいちゃん、おばあちゃんはこども園のことを知らなかったりする。こども園というシステム自体を、子育ての支援として周知する別な取り組みがあってもいいのではないか。

また、子育てサークルは地道な活動で知りたいことを話し合ったりしているので、男女共同参画の視点からサポートする場所や、新しい情報を提供するなどしてもよいのではないか。

(上用委員) 安心して子育てができるというのは、お母さんだけの問題ではなく、お父さんや家族、おじいちゃんおばあちゃんの問題でもある。周りの人が子育てしやすいように、また自身も子育てに参画できるような形で環境を整備するか、近所の人や町内会でもよいが周りがあるような姿勢になっていかなければならない。まわりの人にも周知徹底しながら協力をお願いするようなものがあるかもしれない。

(大場委員) 今、全校コミュニティースクールが入ってきている。学校の運営協議会を立ち上げて町内関係者、地域の住民も含めて動き出している。まだ動き出したばかりなので手探りでやっている。いろんな世代、いろんな方々がいるので学校をみて子ども子育てをみていこうという組織になっているので、今後どう発展していくのか含めて見ていく必要がある。

(上用委員) 自分もコミュニティースクールの委員になっているが、学校とは別に独自でコミュニティー委員の方で何かやってほしいという具体的なものも投げかけられている。いろいろな人材がいるので子育てについての学習会等、委員としての役割の中で子育てどのような支援ができるか考えている。

(事務局) コミュニティースクールも10年前にはなく新しい制度であるし、今、次世代育成支援対策として市としても3子目に対しての支援制度など、以前の計画にはない施策を作っている。子育てサポートセンターについては、一時的に子どもを預けることができる会に、高齢者や男性の方も加わって様々な受け皿を作っている動きがある。それらを各課から出してもらい、新しい部分を網羅しながら整理して提案をしたいと思う

(事務局) 介護の高齢者部門については内容が重複している部分、現在の現状にそぐわない部分

含めて総合的に見直しを行っていきたいと思う。

（上用委員）実績7相談体制の充実について何かありませんか。

（上用委員）相談できる体制は必要。地域で支援が必要な人についてなど、情報を察知する機会が増えたらいいと思う。町内会長や民生委員に見守ってもらうなど。

（松田委員）町内の小さな単位では、情報は言わないけど持っている。民生委員は情報を拾っていくことの手助けができればと思っている。これまで情報がシャットアウトされることを強く感じてきた。

（大場委員）シャットアウトは日本の今までの歴史的なもの。それを変えていくのは、子どもはもちろんだが、年齢が高い方の意識の意識を変えるようなことをしなくてはいけない。講演会や広報で掲載記事を入れるなど、意識を変えるような取り組みが必要。町内会長だけではなく組織の中でどれだけ女性を入れるかが大事だと感じる。

（上用委員）女性が自由に動くことができる環境づくりが大切。

（上用委員）続いて、（2）次期計画策定についてです。

（事務局）次期計画及び策定スケジュールについて説明を行った。